

乳がん診断の現状 広報げろ 2021.12

女性がかかるがんの中で最も多いのが乳がんです。現在では乳がんにかかりやすい年代の女性が10人集まればその内一人は乳がん経験者というような割合です。乳がんは40代後半に発見のピークを迎え、その後は大きく減少することなく、高齢になっても発見されています。



乳がんの発見は、自己検診、乳がん検診、ほかの病気での受診やCT検査などがきっかけとなります。検診で精密検査が必要（カテゴリー③）になった場合、がんの疑いがあるというわけではありません。検診でははっきりわからないのもう一度検査を受けましょうということです。カテゴリー④はがんの疑いがあるということになります。

乳がんの診断は、まず、乳腺外来（外科）で問診、視触診、マンモグラフィー、超音波診断、場合によっては乳房造影MRI検査を行います。この様な検査だけではがんであると断定はしません。がんを確定診断をするためには、必ず、針を刺して細胞を吸引採取する細胞診か、局所麻酔下に太い針を刺して肉片を採取する針生検（組織診）などが必須です。採取した細胞か組織からがん細胞が発見されて初めてがんを診断します。がん細胞が発見できなかった場合は再度検査するか経過観察とします。良性腫瘍であれば経過観察か、場合によっては腫瘍の摘出手術を行います。良性腫瘍はのちに悪性に変化することはありません。

乳腺外来を受診し、経過観察となって一年後の再受診を指示されることがあります。一年後の再受診というのは一年から二年の間に受診してくださいということです。短期間にもう一度診察したいときには、六か月後や一年後など、はっきりと期間を指定しています。

乳がんは、検査で発見できる大きさ（小指頭大の大きさ）になるのに五年以上はかかるとされています。検査で発見される乳房内の様々な変化の中で、細胞検査を行う必要がないと判断した変化については経過観察として、月一回の自己検診で異常なければ再受診は一年以上先でもよいということになります。

現在、金山病院乳腺外来では経過観察のための再受診は火、水、木曜日の午後の予約制にしていますが、受診希望者が多く予約が困難になっています。一年後再受診が必要な理由は様々で、良性腫瘍であったり、今後の変化に注意が必要な場合の経過観察などが理由となります。受診の時点でがんの疑いがあれば一年後の再受診ということにはならず、更なる検査を進めていくことになります。誰でもいつがんになるかはわかりませんし、万一、一年後にがんが発見されても進行がんではなくて、治療で治るがんであると考えています。経過観察中であっても、症状があったり不安を感じておられる方には予約に関係なく午前中の受診での対応を考えていますので受診希望の方は前もってご連絡ください。

下呂市立金山病院 乳腺外来 古田智彦